

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2014-198074

(P2014-198074A)

(43) 公開日 平成26年10月23日(2014.10.23)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
A 6 1 F 13/472 (2006.01)	A 6 1 F 13/18 3 4 O	3 B 2 0 0
A 6 1 F 13/15 (2006.01)	A 6 1 F 13/18 Z	
	A 4 1 B 13/02 R	

審査請求 未請求 請求項の数 14 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号	特願2013-73926 (P2013-73926)	(71) 出願人	000183462
(22) 出願日	平成25年3月29日 (2013. 3. 29)		日本製紙クレシア株式会社
			東京都千代田区神田駿河台 4-6
		(74) 代理人	100092093
			弁理士 辻居 幸一
		(74) 代理人	100082005
			弁理士 熊倉 禎男
		(74) 代理人	100067013
			弁理士 大塚 文昭
		(74) 代理人	100086771
			弁理士 西島 孝喜
		(74) 代理人	100109070
			弁理士 須田 洋之
		(74) 代理人	100109335
			弁理士 上杉 浩

最終頁に続く

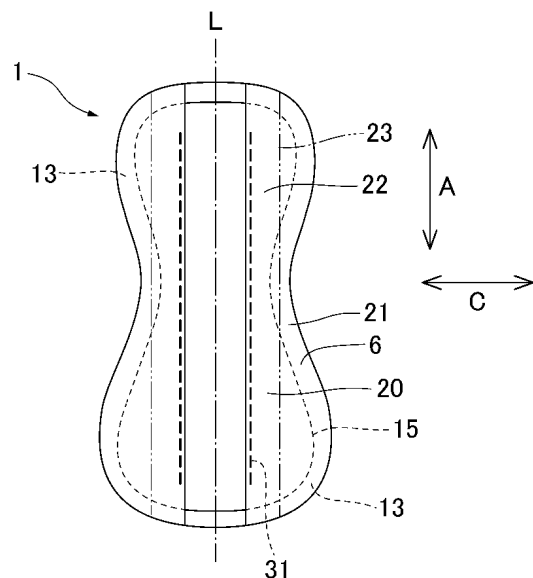
(54) 【発明の名称】 フラップを有する吸収性物品

(57) 【要約】

【課題】本願発明は、体へのフィット性がより良好で、着用時にフラップのまくれが生じにくい吸収性物品を提供することを目的とする。

【解決手段】長手方向に沿って延びる中心線に対して対称形状を有し且つ所定の厚みを有する吸収性物品であって、前記吸収性物品の厚み方向における一方の側に設けた液透過性のトップシートと、前記厚み方向における他方の側に設けた液不透過性又は撥水性のバックシートと、これらの間に介在する液保持性の吸収部材と、前記一方の側において前記トップシートの上方に向って起立し得る立体ギャザーを備え、前記吸収性物品の外周は、前記長手方向と、前記長手方向及び前記厚み方向の双方に直交する幅方向と、によって規定される面方向に延在する、前記吸収部材の存在しないフラップによって規定されており、各部の形状及び寸法等が最適な状態に設定されている。

【選択図】 図 1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

長手方向に沿って延びる中心線に対して対称形状を有し且つ所定の厚みを有する吸収性物品であって、

前記吸収性物品の厚み方向における一方の側に設けた液透過性のトップシートと、前記厚み方向における他方の側に設けた液不透過性又は撥水性のバックシートと、これらの間に介在する液保持性の吸収部材と、前記一方の側において前記トップシートの上方に向かって起立し得る立体ギャザーを備え、

前記吸収性物品の外周は、前記長手方向と、前記長手方向及び前記厚み方向の双方に直交する幅方向と、によって規定される面方向に延在する、前記吸収部材の存在しないフラップによって規定されており、

前記吸収性物品は、前記フラップによって周囲を取り囲まれた状態で前記面方向に延在する、第一部分と、第二部分、及びこれらを繋ぐ中間部分と、を前記長手方向に沿って含んでおり、前記幅方向に沿う前記第一部分の最大幅は、前記幅方向に沿う前記第二部分の最大幅より小さく、前記幅方向に沿う前記中間部分の最大幅は、前記幅方向に沿う前記第一部分の最大幅より小さく、

前記中心線を挟んだ一方の側において、前記幅方向に沿って前記中間部分の最大幅を形成している前記フラップのエッジ部と前記幅方向に沿って前記第一部分の最大幅を形成している前記フラップのエッジ部とを結ぶ直線が、前記幅方向に沿う直線に対して成す鋭角の角度と、前記一方の側において、前記幅方向に沿って前記中間部分の最大幅を形成している前記フラップのエッジ部と前記幅方向に沿って前記第二部分の最大幅を形成している前記フラップのエッジ部とを結ぶ直線が、前記幅方向に沿う直線に対して成す鋭角の角度との和が、 155° 以上 175° 以下であることを特徴とする吸収性物品。

【請求項 2】

前記幅方向に沿う前記第一部分の最大幅は、前記幅方向に沿う前記中間部分の最大幅の $105\sim 120\%$ である請求項 1 に記載の吸収性物品。

【請求項 3】

前記幅方向に沿う前記第二部分の最大幅は、前記幅方向に沿う前記中間部分の最大幅の $110\sim 140\%$ である請求項 1 又は 2 に記載の吸収性物品。

【請求項 4】

前記幅方向に沿う前記第一部分の最大幅は、前記幅方向に沿う前記中間部分の最大幅の $105\sim 120\%$ であり、

前記幅方向に沿う前記第二部分の最大幅は、前記幅方向に沿う前記中間部分の最大幅の $110\sim 140\%$ であり、

両者の幅の差が $0\sim 20\%$ 以下である請求項 2 又は 3 に記載の吸収性物品。

【請求項 5】

前記幅方向に沿う前記中間部分の最大幅は、前記長手方向に沿う前記吸収性物品の最大長の $30\sim 40\%$ である請求項 1 乃至 4 のいずれかに記載の吸収性物品。

【請求項 6】

前記面における前記フラップの総面積は、前記吸収性物品の総面積の 30% 以下である請求項 1 乃至 5 のいずれかに記載の吸収性物品。

【請求項 7】

前記幅方向に沿う前記第一部分の最大幅を構成している前記フラップのエッジ部と前記幅方向において前記第二部分の最大幅を構成している前記フラップのエッジ部とを結ぶ直線が、前記中心線を挟んだ一方の側において前記中心線に対して成す鋭角の角度が、 5 度以下である請求項 1 乃至 6 のいずれかに記載の吸収性物品。

【請求項 8】

前記フラップは、前記トップシート又は前記バックシートの少なくともいずれか一方によって形成されている請求項 1 乃至 7 のいずれかに記載の吸収性物品。

【請求項 9】

前記フラップの幅は5～15mmである請求項1乃至8のいずれかに記載の吸収性物品。

【請求項10】

前記トップシートと前記吸収部材との間に介在する液透過性のセカンドシートを更に備える請求項1乃至9に記載の吸収性物品。

【請求項11】

前記幅方向における前記吸収部材の最大幅は、立体ギャザーを構成中の起立部同士の間隔より大きい請求項1乃至10のいずれかに記載の吸収性物品。

【請求項12】

前記幅方向における前記吸収部材の最大幅は、立体ギャザーを構成中の起立部同士の間隔より小さい請求項1乃至10のいずれかに記載の吸収性物品。

【請求項13】

前記長手方向に沿う前記吸収性物品の最大長は、20～35cmであり、前記幅方向に沿う前記吸収性物品の最大幅は、7～15cmである請求項1乃至12のいずれかに記載の吸収性物品。

【請求項14】

前記吸収性物品は、失禁パッドである請求項13に記載の吸収性物品。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、失禁パッド、生理用ナプキン、パンティライナー等の吸収性物品、特に、フラップを有する吸収性物品に関する。

【背景技術】

【0002】

尿、便等の排せつ物、経血、おりもの等を吸収するため、失禁パッド、生理用ナプキン、パンティライナー等の、様々な吸収性物品が開発されている。これらの吸収性物品には、肌に接する液透過性のトップシートと、その対向側の液不透過性又は撥水性のバックシート、及びこれらの間に介在する液保持性の吸収体を基本構成としつつ、更に、トップシートやバックシートによって形成された、側方に突出するフラップを有するものがある。

【0003】

特許文献1は、このようなフラップ付きの生理用ナプキン等において、フラップのめくれやヨレ等を解消するため、比較的大きな特殊な形状を有したフラップを設けた吸収性物品を開示する。しかしながら、フラップは、コシがないため下着に装着しにくく、めくれやヨレの問題が生じやすいといった問題を有する。

【0004】

一方、特許文献2は、おむつの外周に沿ってフラップを比較的小さな面積範囲で設け、更に、横漏れ防止用の立体ギャザーを設けた吸収性物品を開示する。特許文献2の構成は、特許文献1の構成に比べ、フラップを小さくした分、めくれやヨレの問題が生じにくくなっており、また、立体ギャザーを設けたことにより、フラップにコシが与えられ、めくれやヨレをより効果的に防止できるものとなっている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0005】

【特許文献1】特開2010-227211号公報

【特許文献2】特許2006-198122号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

特許文献2に開示された吸収性物品は、特許文献1のものと異なり、めくれを生じにくいものではあるが、股部におけるフィット感が乏しいものであるといった欠点を有する。

更に言えば、この特許文献2の吸収性物品は、長手方向に沿って延びる中心線に対して対称形状を有し且つ所定の厚みを有するものであって、長手方向に沿って、前方部分と、後方部分、及びこれらを繋ぐ中間部分を含み、長手方向及び厚み方向の双方に直交する幅方向に沿う前方部分の最大幅が、幅方向に沿う後方部分の最大幅より小さく、幅方向に沿う中間部分の最大幅が、幅方向に沿う前方部分の最大幅より小さく設定されているが、中間部分の最大幅と、前方部分の最大幅や後方部分の最大幅の差が比較的小さいことから、股部におけるフィット感が乏しいものとなっている。

そこで、本願発明は、これら従来技術における問題点を解決するため、体へのフィット性がより良好で、着用時にフラップのまくれが生じにくい吸収性物品を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0007】

本発明は、長手方向に沿って延びる中心線に対して対称形状を有し且つ所定の厚みを有する吸収性物品であって、前記吸収性物品の厚み方向における一方の側に設けた液透過性のトップシートと、前記厚み方向における他方の側に設けた液不透過性又は撥水性のバックシートと、これらの間に介在する液保持性の吸収部材と、前記一方の側において前記トップシートの上方に向って起立し得る立体ギャザーを備え、前記吸収性物品の外周は、前記長手方向と、前記長手方向及び前記厚み方向の双方に直交する幅方向と、によって規定される面方向に延在する、前記吸収部材の存在しないフラップによって規定されており、前記吸収性物品は、前記フラップによって周囲を取り囲まれた状態で前記面方向に延在する、第一部分と、第二部分、及びこれらを繋ぐ中間部分と、を前記長手方向に沿って含んでおり、前記幅方向に沿う前記第一部分の最大幅は、前記幅方向に沿う前記第二部分の最大幅より小さく、前記幅方向に沿う前記中間部分の最大幅は、前記幅方向に沿う前記第一部分の最大幅より小さく、前記中心線を挟んだ一方の側において、前記幅方向に沿って前記中間部分の最大幅を形成している前記フラップのエッジ部と前記幅方向に沿って前記第一部分の最大幅を形成している前記フラップのエッジ部とを結ぶ直線が、前記幅方向に沿う直線に対して成す鋭角の角度と、前記一方の側において、前記幅方向に沿って前記中間部分の最大幅を形成している前記フラップのエッジ部と前記幅方向に沿って前記第二部分の最大幅を形成している前記フラップのエッジ部とを結ぶ直線が、前記幅方向に沿う直線に対して成す鋭角の角度との和が、 155° 以上 175° 以下である吸収性物品が提供される。

【0008】

上記吸収性物品において、前記幅方向に沿う前記第一部分の最大幅は、前記幅方向に沿う前記中間部分の最大幅の $105\sim 120\%$ であるのが好ましい。

また、前記幅方向に沿う前記第二部分の最大幅は、前記幅方向に沿う前記中間部分の最大幅の $110\sim 140\%$ であるのが好ましい。

更に、前記幅方向に沿う前記第一部分の最大幅は、前記幅方向に沿う前記中間部分の最大幅の $105\sim 120\%$ であり、前記幅方向に沿う前記第二部分の最大幅は、前記幅方向に沿う前記中間部分の最大幅の $110\sim 140\%$ であり、両者の幅の差が $0\sim 20\%$ 以下であるのが好ましい。

【0009】

上記吸収性物品において、前記幅方向に沿う前記中間部分の最大幅は、前記長手方向に沿う前記吸収性物品の最大長の $30\sim 40\%$ であるのが好ましい。

また、前記面における前記フラップの総面積は、前記吸収性物品の総面積の 30% 以下であるのが好ましい。

更に、上記吸収性物品において、前記幅方向に沿う前記第一部分の最大幅を構成している前記フラップのエッジ部と前記幅方向において前記第二部分の最大幅を構成している前記フラップのエッジ部とを結ぶ直線が、前記中心線を挟んだ一方の側において前記中心線に対して成す鋭角の角度が、 5 度以下であるのが好ましい。

【0010】

上記吸収性物品において、前記フラップは、前記トップシート又は前記バックシートの少なくともいずれか一方によって形成されていてもよい。

また、上記吸収性物品において、前記フラップの幅は5～15mmであるのが好ましい。

【0011】

尚、上記吸収性物品は、前記トップシートと前記吸収部材との間に介在する液透過性のセカンドシートを更に備えていてもよい。

前記幅方向における前記吸収部材の最大幅は、立体ギャザーを構成中の起立部同士の最大幅より大きくてもよいし、小さくても良い。

【0012】

上記吸収性物品は、前記長手方向に沿う前記吸収性物品の最大長は、20～35cmであり、前記幅方向に沿う前記吸収性物品の最大幅は、7～15cmであるのが好ましい。

上記吸収性物品は、失禁パッドであってもよい。

【発明の効果】

【0013】

この発明によれば、体へのフィット性が良好で、着用時にフラップのまくれが生じにくい吸収性物品が提供される。

【図面の簡単な説明】

【0014】

【図1】本発明の一実施形態による失禁パッドの平面図である。

【図2】本発明の失禁パッドの厚み方向における断面図である。

【図3】本発明の失禁パッドにおける寸法関係を示す図である。

【図4】本発明の失禁パッドにおける寸法関係を示す図である。

【発明を実施するための形態】

【0015】

以下、添付図面を参照しつつ、本発明の一つの好適な実施形態による吸収性物品について説明する。尚、本明細書では、吸収性物品として尿取り用の失禁パッドを例に挙げて説明するが、本発明の吸収性物品には、これに限らず、生理用ナプキン、パンティライナーといったその他の吸収性物品も含まれる。

【0016】

図1に、本発明の一実施形態による失禁パッド1の平面図を、図2に、図1の失禁パッド1の厚み方向における断面図を、それぞれ示す。これらの図に示すように、本失禁パッド1は、所定の厚みを有し、且つ、全体として平面視略瓢箪形状を有しており、長手方向（図1中の矢印「A」方向）に沿って延びる中心線「L」に対して対称形状を成している。

【0017】

基本構成として、本失禁パッド1は、失禁パッド1の厚み方向（図2中の矢印「B」方向）における一方の側に設けた液透過性のトップシート11と、厚み方向における他方の側に設けた液不透過性又は撥水性のバックシート13と、これらの間に介在する液保持性の吸収体15、更に、厚み方向における上記一方の側においてトップシート11の上方に向って起立して尿等の横モレを防止し得る撥水性の不織布から成る立体ギャザーを含む。これらの基本構成に加え、更に、トップシート11と吸収体15との間に介在し得る液透過性のセカンドシート19や、吸収体15を包むコアラップシート17が設けられていてもよく、更に、バックシート13の下着当接面に、軽失禁パッド1を下着に固定するための剥離可能な粘着材締結手段7を設けてもよい。

【0018】

トップシート11は、液体透過性であり、着用者の皮膚から吸収体15に吸収された液体から隔離できる材料から形成されていることが好ましい。具体的には、トップシート11は、多孔性発泡体、網状発泡体、穿孔プラスチックフィルム、木材又は綿繊維のような天然繊維、ポリエステル又はポリプロピレン繊維のような合成繊維あるいはこれらを組合

10

20

30

40

50

せた繊維からなる不織ウェブ材料から形成されていればよい。しかし、トップシート 11 の材料は、これらに限定されるものではなく、液体透過性であり、吸収体 15 に吸収され保持されている液体から着用者の皮膚を隔離することができる、一般的な不織布であってもよい。

【0019】

セカンドシート 19 も、繊維材料から形成することができ、例えば、エアースルー等のサーマルボンド不織布によって形成してもよい。これらの不織布には、親水処理が施されており、使用者の排せつ物（尿等）を吸収体 15 へ拡散させる作用を有する。

【0020】

吸収体 15 は、トップシート 11 と略相似形状を成しており、一般的に超吸収性材料として既知である高吸収性材料の粒子と混合された、木材パルプフラフのようなセルローズフラフのウェブの親水性繊維マトリックスを含むものであればよい。吸収体をトップシートと略相似形状とすることにより、フラップを最小限としてまくれやヨレを抑えることができる。尚、木材パルプフラフの代わりに合成繊維、ポリマー繊維などを使用してもよい。超吸収性粒子は、親水性繊維と均一に混合されていてもよいし、不均一に混合されていてもよい。超吸収性粒子の混合率は吸収体の厚みにより変えてもよいし、また超吸収性粒子の混合率を吸収体の部分によって変えるように構成してもよい。超吸収性材料は別個になった粒子の形態であることが好ましいが、様々な幾何学的形状であってもよい。

【0021】

バックシート 13 は、吸収体 15 内において保持している液体などが下着に洩れないように防水機能をもたせるために、液体に対し不透過である材料から形成されていることが好ましい。通常、このような液体不透過性のバックシート 13 は、ポリエチレンフィルムなどの薄いプラスチックフィルムや、これとは別の可撓性液体不透過性材料から製造することができる。また、このようなバックシート 13 は、吸収体 15 からの蒸気を逃しつつ、液体が通過しないように微孔性の通気性材料から形成されていてもよい。

【0022】

立体ギャザー 20 は、失禁パッド 1 の幅方向両側部に固定された基端部 21 と、この基端部 21 から幅方向中央側に延出する起立部 22 とを有し、起立部 22 のうちの前後方向両端部は非起立状態で固定され、これらの間の前後方向中間部は非固定の自由端とされており、自由端の近傍には、細長状弾性伸縮部材 31 が前後方向に沿って伸張された状態で固定されている。弾性伸縮部材 31 が収縮することにより、図 2 の「b」に示すように、起立部 22 が、失禁パッド 1 の側方において起立端 23 を中心として着用者側に向かって立ち上がり、これにより、着用時に着用者の足の付け根近傍に当接する立体ギャザーが形成され得る。尚、吸収体 15 の最大幅「ア」は、一般に、立体ギャザーを構成する起立部 22 同士の幅「イ」より大きく設定される。但し、ポイズパッド等の場合は、逆に、吸収体 15 の最大幅「ア」は、一般に、立体ギャザーを構成する起立部 22 同士の幅「イ」より小さく設定される。これら立体ギャザーを設けることにより、横漏れをより効果的に防ぐことができる。

【0023】

失禁パッド 1 の外周は、トップシート 11、又は、バックシート 13、又は、トップシート 11 とバックシート 13 の外周枠における重ね合わせによって形成された、吸収体 15 の存在しないフラップ 6 によって規定される。フラップ 6 は、長手方向「A」と、長手方向「A」及び厚み方向「B」の双方に直交する幅方向（図示矢印「C」方向）と、によって規定される面方向に延在する。

【0024】

図 3、図 4 に、本失禁パッド 1 を、図 1 と同様の方法で示す。尚、ここで説明する詳細な寸法関係等は、後に示す実験結果から得られたものである。

【0025】

本失禁パッド 1 は、その形状から、大きく 3 つの部分に分けて考えることができる。即ち、フラップ 6 によって周囲を取り囲まれた状態で、長手方向「A」と幅方向「C」によ

10

20

30

40

50

って規定される面方向に延在している、前方部 2、後方部 4、及びこれらを繋ぐ中間部 5 である。

【0026】

これらの各部は、長手方向「A」に沿って設けられており、幅方向「C」に沿う前方部 2 の最大幅「WF」は、幅方向「C」に沿う後方部 4 の最大幅「WB」より小さく、且つ、幅方向「C」に沿う中間部 5 の最大幅「WM」は、幅方向「C」に沿う前方部 2 の最大幅「WF」より小さく設定されている。このような大きさに設定することにより、装着時には、前方部 2 を着用者の腹部側に、後方部 4 を着用者の背中側に向け、また、前方部 2 や後方部 4 に比べて幅狭とした中間部 5 を、着用者の股部に確実にフィットさせることができる。

10

【0027】

また、以下の実験結果から明らかなように、本失禁パッド 1 においては、中心線「L」を挟んだ一方の側において、幅方向「C」に沿って中間部「5」の最大幅「WM」を形成しているフラップ 6 のエッジ部 4 1 と、幅方向「C」に沿って前方部 2 の最大幅「WF」を形成しているフラップ 6 のエッジ部 4 2 と、を結ぶ直線「b」が、幅方向「C」に沿う直線に対して成す鋭角の角度「 θ' 」と、中心線「L」を挟んだ一方の側において、幅方向「C」に沿って中間部 5 の最大幅「WM」を形成しているフラップ 6 のエッジ部 4 1 と、幅方向「C」に沿って後方部 2 の最大幅「WB」を形成しているフラップ 6 のエッジ部 4 3 と、を結ぶ直線「c」が、幅方向「C」に沿う直線に対して成す鋭角の角度「 θ'' 」と、の和の角度「 θ_1 」は、 155° 以上 175° 以下であるのが好ましい。

20

また、幅方向「C」に沿う前方部 2 の最大幅「WF」は、幅方向「C」に沿う中間部「5」の最大幅「WM」の $105 \sim 120\%$ であるのが好ましく、幅方向「C」に沿う後方部 2 の最大幅「WB」は、前記幅方向「C」に沿う中間部 5 の最大幅「WM」の $110 \sim 140\%$ であるのが好ましい。

更に、幅方向「C」に沿う前方部 2 の最大幅「WF」は、幅方向「C」に沿う中間部「5」の最大幅「WM」の $105 \sim 120\%$ であり、幅方向「C」に沿う後方部 2 の最大幅「WB」は、前記幅方向「C」に沿う中間部 5 の最大幅「WM」の $110 \sim 140\%$ のとき、両者の幅の差が $0 \sim 20\%$ 以下であるのが好ましい。

更にまた、幅方向「C」に沿う中間部 5 の最大幅「WM」は、長手方向「A」に沿う失禁パッド 1 の最大長「ウ」の $30 \sim 40\%$ であるのが好ましい。

30

【0028】

また、本失禁パッド 1 においては、図 4 に示すように、幅方向「C」に沿う前方部 2 の最大幅「WF」を構成しているフラップ 6 のエッジ部 4 2 と、幅方向「C」において後方部 2 の最大幅「WB」を構成しているフラップ 6 のエッジ部 4 3 と、を結ぶ直線「d」が、中心線「L」を挟んだ一方の側において中心線「L」（又はそれと平行な平行線「L'」）に対して成す鋭角の角度「 θ_2 」は、 5° 以下、更に好ましくは 2.5° 以下であるのが好ましい。

また、フラップの幅「e」は、 $5 \sim 15\text{mm}$ であるのが好ましい。

更に、長手方向「A」と幅方向「C」とによって規定される面におけるフラップ 6 の総面積は、失禁パッド 1 の総面積の 30% 以下である。

40

【実施例】

【0029】

以下、実施例を挙げて、本発明を具体的に説明するが、勿論、本発明はこれらの例に限定されるものではない。

図 1 乃至 4 に示す形状（少なくともその一部）を有した吸収性物品を作製し、下記表に掲げた値に寸法関係を設定して実施例 1～3 等とした。一方、比較例として、同じ材質、材料により、表に掲げた寸法関係等のみを変更した吸収性物品を作製した。

評価は、フィット性とまぐれの双方について同時に行い、これらについて、8 名のモニターにより評価を行った。評価結果は、◎（非常に明瞭である）、○（良い）、△（普通）、×（明瞭でない）の四段階とした。

50

【0030】

得られた結果を表1に示す。

表1

	最大長	最大幅	鋭角の和	WF:WM	WB:WM	両者の差	WMと最大長	フラップ総面積	エッジ部鋭角	フラップ幅	評価(フィット性、まくれ)
実施例1	27	12	171.5	109.8:1	117.6:1	7.1	37.5	27.6	2.4	11～15	◎
実施例2	35	14	173.0	108.3:1	116.7:1	7.7	34.3	28.9	2.4	13～15	○
実施例3	23	9.6	172.4	111.6:1	111.6:1	0	37.4	25.7	-	12～13	○
比較例1	35	16.5	158.24	116.7:1	137.5:1	17.9	34.3	35.4	8.15	13～27	×

上記表において、「最大長」は、長手方向「A」に沿う失禁パッド1の最大長「ウ」を意味し、単位は「cm」である。また、「最大幅」は、幅方向「C」に沿う失禁パッド1の中間部5の最大幅「WM」を意味し、単位は「cm」である。「鋭角の和」は、図3中の角度「 θ' 」と角度「 θ'' 」の和の角度「 θ_1 」を意味し、単位は「度」である。「WF:WM」は、中間部5の最大幅「WM」を基準として、第一部分2の最大幅「WF」の長さを比で表わしたものの、「WB:WM」は、中間部5の最大幅「WM」を基準として、第二部分4の最大幅「WB」の長さを比で表わしたものの、「両者の差」は、「WB:WM」の比と「WF:WM」の比の差を表わしたものである。「WMと最大長」は、中間部分5の最大幅「WM」を基準として、長手方向「A」に沿う同失禁パッド1の最大長「ウ」の長さを、パーセンテージで表わしたもので単位は「%」である。「フラップ総面積」は、失禁パッド1の総面積に占めるフラップの総面積の割合を、パーセンテージで表わしたもので単位は「%」である。「エッジ部鋭角」は、図4の角度「 θ_2 」を意味し、単位は「度」である。「フラップ幅」は、図4におけるフラップ幅「e」を表わしたもので単位は「mm」である。

表1から明らかなように、実施例1乃至3の寸法関係等によれば、フィット性およびまくれの評価として良好な結果が得られた。特に、「鋭角の和」を、 155° 以上 175° 以下、「WF:WM」を、 $105:1 \sim 120:1$ 、「WB:WM」を、 $110:1 \sim 140:1$ 、「両者の差」を、 $0 \sim 20\%$ 以下、「WMと最大長」を、 $30 \sim 40\%$ 、「フラップ総面積」を 30% 以下、「エッジ部角度」を5度以下、「フラップ幅」を、 $5 \sim 15\text{mm}$ 等とした場合に、比較例1に示す従来のもの等に比べて、著しく高い評価が得られた。

尚、本発明は、表1でも示したように、長手方向「A」に沿う最大長「ウ」が、 $20 \sim 35\text{cm}$ 、幅方向「C」に沿う最大幅「WB」が、 $7 \sim 15\text{cm}$ の範囲で実験を行っており、そのような大きさの、例えば、失禁パッドに適用することによって、大きな効果が得られると考えられる。

【産業上の利用可能性】

【0031】

生理用ナプキン、パンティライナー等、様々な吸収性物品に適用できる。

【符号の説明】

【0032】

1 吸収性物品

10

20

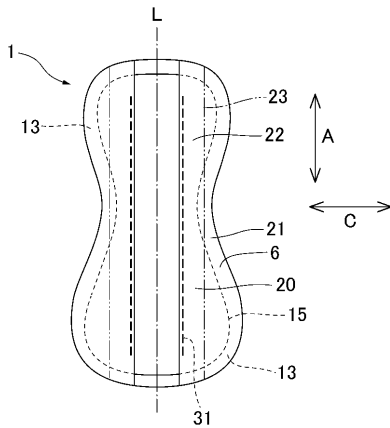
30

40

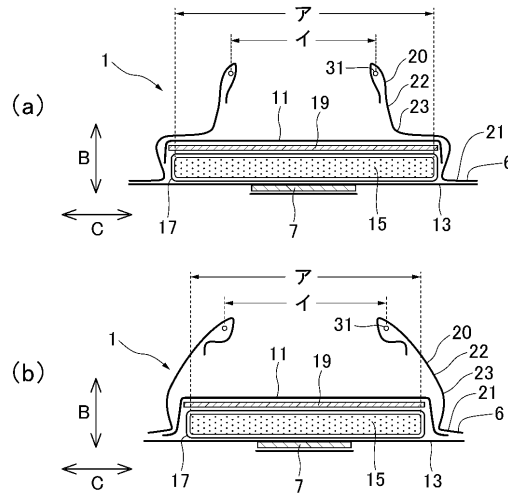
50

- 2 前方部
 4 後方部
 5 中間部
 6 フラップ
 11 トップシート
 13 バックシート
 15 吸収部材
 41 エッジ部
 42 エッジ部
 43 エッジ部
 A 長手方向
 C 幅方向
 B 厚み方向
 L 中心線
 WF 前方部の最大幅
 WM 中間部の最大幅
 WB 後方部の最大幅

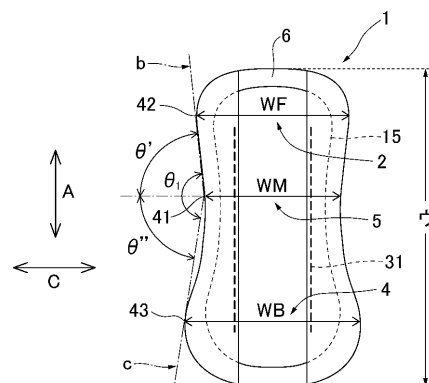
【図 1】



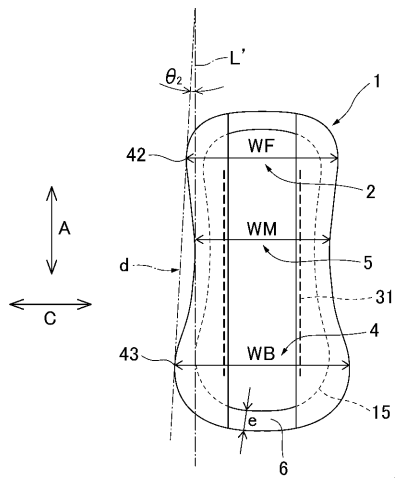
【図 2】



【図 3】



【図 4】



フロントページの続き

(74)代理人 100167911

弁理士 豊島 匠二

(72)発明者 川口 豊之

東京都千代田区神田駿河台4-6 日本製紙クレシア株式会社内

(72)発明者 藤崎 浩二

東京都千代田区神田駿河台4-6 日本製紙クレシア株式会社内

Fターム(参考) 3B200 AA01 AA03 BA12 BA13 BB09 CA12 CA13 DA03 DA04